

スンバの活用や NPO に意見集中 とにかく“ゆっくり・楽しむ会でいこう”

平成 16 年 5 月 16 日 チューリップ公園内の中島家で砺波カイニョ倶楽部の平成 16 年度総会を開きました。

柏樹代表幹事が挨拶（別掲）した後、進行役を務めました。天野事務局長による 1 年間の事業と会計報告、和田監事による監査報告などの後、平成 16 年度の事業計画や、カイニョイズム研究会からの島根大学の先生を招いた講演会“くるま座会議カイニョイズム”の説明がありました。

出席者がそれぞれ意見や思いを語ることで、総会の成功をと、ほとんどの方が発言し盛り上がりました。おおまかな意見は次のとおり。

D: カイニョ倶楽部が NPO になることについて今一度全体で話し合っておくことが必要だ。

F: 屋根にスンバがたまるのが気になり、弟と一緒にスンバ掃除をしようと言っている。

T: スンバの出る量を年間をとおして測定することの意味は大きい。また、その家の樹種と本数も調べるとよい資料ができる。

I: 強度な枝おろしが増えているがカイニョの値打ちが損なわれる。助成金支給についてもきちんとチェックをしてほしい。

K: ペレットストーブの普及が大事だ。カイニョ倶楽部の活動 PR や提言も行うのもよいかもしれない。NPO は必要になった時点で検討することが望ましいのではないかと。

M: スンバ発生量の調査は、倶楽部会員の協力などによりぜひやっていただきたい、NPO になると、補助金を受ける際など行政と連携しやすくなる。

H: 屋敷林のクリに虫が入ったため伐った。その時少しスギ枝の手入れもしたが、10 万円以上かかった。枝おろしの理想絵図の配布をしてほしい。

K: 会員のうち 3 分の 2 以上は応援団。期待や知識はあっても事業体には慣れない。

カイニョを守る主体は住民だ。住民をたばねるのは行政だ。倶楽部は楽しみながらの宣伝マンであり、色んな事業の請負をやることには反対だ。むしろ倶楽部として哲学をまとめ提言すること等をしてはどうか。そのために若い方が大いに活動世話の中心になってほしい。

S: 応援団のつもりで会報を読んでいる。カイニョを残すために子どもも含め長く楽しく付き合う会であることが大事だと思う。

N: 木を植えたいと思うとどこへ行って求めるのか。また、維持も大変だ。NPO は慌てなくてもいいと思う。

T: NPO は急ぐな。サークルのような形がよい。カイニョに憧れて参加している。掃除手伝いは楽しい体験の場だ。

H: スンバを集めておき、左義長に使ってはどうか。

D: 今の生活にどういう形でスンバを活かすかが一つの課題だ。ドウワに入れてスンバをしまっておき、左義長に使うのは大変よい。

W: スンバ処理は自分で燃やせないことが問題だ。外に持って行って処理するという考え方が問題でないか。屋敷の隅にためて活用することもどうか。土の上の落ち葉とコンクリートの上の落ち葉とイメージはまったく違う。あまり急いでコンクリート化しないことではないか。高校生でツツジを知らない学生が多い。世の中の変わりようがひどく、植物に全く関心がないということでないのか。

T: 行事の参加人数は、会員数と比べて少ない。今日は記念講演「壁にこだわってきて」に期待している。

A: 会として色んなところの遠足もやろう。韓国の散居も見に行きたい。

T: 子どもにカイニョの中で自由に遊ばせ、体験させられる機会を多くするとよい。また、新居にカイニョを作る上でのアドバイスもできないか。

こうした意見もふまえ、平成 16 年度の事業と 15 年度報告は確認されました。

その後は、記念講演として石崎勝紀さんの「壁にこだわってきて」を聞きました。（別掲）大変、含蓄のある今日的な問題提起もふくめた講演に大満足でした。

参加者一同（21 名）ユックリズムの会を旨に 16 年度も元気でやろうと確認し総会を終えました。この総会の模様を北日本新聞（5/16）と富山新聞（5/23）が掲載しました。

—みなさんの近況等、お知らせ下さい。—

◆ 柏樹代表幹事のあいさつ

- ①平成15年は「手取流域の見学」「千光寺と大島治彦宅の掃除」、北日本新聞地域社会賞をいただき、風間耕司氏の記念講演会を開いた。
- ②今も極度の枝おろしが進んでいる。その理由は「野焼きができないから」。まさにカイニョの受難は続いている。
- ③行政の努力や地域協定も進んでいる。が、その実効は見えてこない。
- ④木を植えようという雰囲気を広げよう。
- ⑤「金」と「利便」だけで律することによいのか。「人間」が問われている時代だ。



16年度 総会の模様

講師：石崎勝紀氏

学校より壁屋へく熱い父の期待を受け継ぐ

— 石崎勝紀さん講演の要旨 —

- ・ 学校に行っている時から壁塗りの手伝いをした。親は学校より壁屋になることに力を入れ、結局三代目になった。中学時代からコウマイカキをやった。
- ・ その親は53歳で亡くなり、私は21歳だった。壁屋をやり6年間しか親に教わるができなかった。その間、親は大変熱心に教えてくれた。漆喰づくり、天気を考えたノリの調合、コウマイのかき方、観音開き戸のワクづくり等すべて体で覚えた。
- ・ 父のあとの親方に蔵づくりや家紋、コテ絵を習った。その時、名工、竹内源造のことを知った。ナマコ壁にも思いが植え付けられた。
- ・ 農業をそっちのけにしてコテ絵のことで走り歩き、親戚中から注意された。
- ・ ナマコ壁を造ることは、大変な技術だ。1つに1mm違っても7ヶ目で7mmの差が出てくる。だから砺波の近藤家のナマコ壁を残すことに大変な情熱を傾けた。
- ・ 瑞龍寺の壁彫刻の修理が国際大学の上野教授との出会いである。
- ・ 富山の旧家の壁修理を国際学園の生徒20名とやった。とにかく技術を伝えることに集中し、それも正しく伝えていきたい。昔はそのことを親方のやっている技術をじっとみて「ぬすむ」ものだと教えられた。
- ・ 技術向上のためには講習は絶えず続けることだ。
- ・ 壁は湿気の調整をする。呼吸する建物を造ることが大事だ。しかも、リサイクルできることが時代に合う。ゴミばかり出すよう工法は必ず行き詰まる。
- ・ あまり工期で追わないことだ。また長期間維持できるものを造ることを使命にしている。

次回 例会 「庄川と生きる」

今の姿と伝承すべきものを見つけるドライブ

- 日時：平成16年7月3日（土）
午前8時30分～午後3時30分（雨天決行）
- 集合場所：四季彩館駐車場（砺波市）
- 見学場所：合口ダム、松川除、利賀川工水利用現場、散居遠望、十五社神社社叢、庄川養魚場、庄川敷の畑、射水平野西部排水機場
- 会費：500円（子ども300円）
- 申込み先：天野宅 0763-33-6588
- 申込み〆切：7月1日（木）
- 昼食を用意します。